

(様式3) 【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	西ノ島町立西ノ島小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合	西ノ島の伝統を体験しよう	高橋英康さん(長福寺住職) 前田喜代志さん 河井正一さん ふるさと資料館
ねらい		西ノ島の伝統行事について、見る、聞く、踊る、演奏するなどして体験的に学び、その良さを他者に伝える。	
<p>1 取組の概要</p> <p>ふるさと資料館の見学をきっかけに、地域の伝統行事への探究活動を開始した。本年は、25年に一度の「美田八幡宮大遷宮」が執り行われる年であり、実際の様子を見学した児童の「もっと知りたい」という意欲を起点に活動を深めた。地域講師を招き、伝統芸能「十方拝礼」の歴史や継承の意義を聴講するとともに、実技指導を仰いだ。地域の方の情熱に触れる中で、児童の中に「この伝統を途絶えさせてはならない、繋いでいきたい。」という当事者意識が芽生えた。そこで、調べたことをポスターにまとめ、学習発表会で発表を行い、保護者や地域の方に伝えた。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○西ノ島の伝統行事のよさに気づき、西ノ島への愛着を高めるために、今も十方拝礼を繋いでおられる地域講師の方々にインタビューをし、踊りや演奏を教えてもらうことで、郷土への誇りを醸成する。 ○地域講師の方々の熱い思いを聞くことで、自分たちもこの大切な行事を伝えていきたいという意欲を高める。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インタビュー内容の精査や発表資料の構成を検討する過程を通じ、目的(何を伝えるか)に合わせて情報を整理・選択する力を育成する。 ○発表(地域講師、保護者)を意識することで、声の大きさや身振り、手ぶりなどの表現方法を工夫することができるようにする。 <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○西ノ島の伝統行事を後世につないでいきたいという思いをもち、将来的に自分も十方拝礼を踊ってみたいと、ふるさとへの愛着や誇りをもつことができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単なる見学に留まらず、自身の疑問を解決するために自発的に質問を行ったり、関連資料を自ら探したりするなど探究的な姿勢が見られた。 ○グループ活動において、共通のゴール(発表)に向かって合意形成を図りながら資料を作成するなど、対話を通じて学びを深める姿が見られた。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○西ノ島の自然について体験することや調べることの内容が多く、時期もまとまらないため、学習の流れを考えることが難しかった。探究的な学習の時間のサイクルを年間で回していくように指導計画などの修正をしていきたい。 ○調べて分かったことを発表する際に、相手にわかりやすいようにまとめたり、伝えたりすることに課題がある。 ○授業内での発表に留まらず、地域の行事やデジタルツール等を活用し、日常的に「西ノ島の魅力」を校外へ発信できる態度の育成を目指したい。 			

※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。



※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。
※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。